

## 17世紀に発生した千島海溝の連動型地震の再検討 Reexamination of the 17th century Kuril multi-segment earthquake

岡村 行信<sup>1\*</sup>, 行谷 佑一<sup>1</sup>

OKAMURA, Yukinobu<sup>1\*</sup>, NAMEGAYA, Yuichi<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 産業技術総合研究所活断層・地震研究センター

<sup>1</sup> Active Fault and Earthquake Research Center, GSJ, AIST

17世紀に北海道東岸を襲ったと推定されている巨大津波を発生させた千島海溝の連動型地震は、津波堆積物の分布域を津波浸水域として津波シミュレーションを行い、 $M_w$  8.4 から 8.5 と推定されている。しかしながら、2011年東北地方太平洋沖地震は、津波堆積物の分布域より津波浸水域の方が広いことを明確に示した。この知見を千島海溝に適用すると、17世紀の津波を発生させた連動型地震は、 $M_w$  8.5 よりかなり大きい可能性が出てくる。もし、この地震の規模が従来の推定より大きくなると、三陸海岸へも被害を与え、歴史記録に残ると考えられる。17世紀の歴史記録に残る三陸海岸の被害津波を見ると、西暦1611年の三陸慶長津波があり、同地震が千島海溝の連動型地震によって発生した可能性が高くなる。津波シミュレーションによると、千島海溝の地震規模を  $M_w$  8.9 以上にすると、三陸海岸で歴史記録に残る津波に匹敵する津波が発生する。このようなシミュレーションが妥当かどうかについては更に検討が必要であるが、千島海溝の連動型地震については従来の推定よりは規模が大きいと考えるのが妥当であろう。

文献：岡村・行谷（2011）活断層・古地震研究報告，11，15-20. (<http://unit.aist.go.jp/actfault-eq/seika/kojishin.html>)

キーワード: 巨大津波, 連動型地震, 千島海溝, 1611年慶長三陸津波

Keywords: giant tsunami, multi-segment earthquake, Kuril trench, 1611 Keicho-Sanriku-tsunami